

北相木村には、

小さい村だからこそ、小回りが利く行政の

温かい暮らしがある。

上／ビニールハウスでほうれん草を栽培
中／ほうれん草には様々な種類がある
下／ほうれん草の出荷準備

旅行会社の同僚だった
四国出身の奥さんと
お嬢さんと息子さん

信州・北相木村村勢要覧

KITA-AIKI VILLAGE OVERVIEW 2018

北相木村へのアクセス

電車をご利用の場合

◎東京駅→（北陸新幹線・1時間10分）→佐久平駅→（JR小海線・54分）→小海駅→（バス・30分）→北相木村
◎新宿駅→（中央線・2時間7分）→小淵沢駅→（JR小海線・1時間5分）→小海駅→（バス・30分）→北相木村

お車をご利用の場合

◎練馬IC→（関越自動車道・58分）→藤岡JCT→（上信越自動車道・25分）→佐久小諸JCT→
→（中部横断自動車道・24分）→八千穂高原IC→（国道141号・25分）→北相木村
◎高井戸IC→（中央自動車道・中央1時間50分）→須玉IC→（国道141号・1時間）→北相木村



信州・北相木村村勢要覧

◎発行／2018年3月　長野県北相木村
◎企画／北相木村 総務企画課　〒384-1201 長野県南佐久郡北相木村2744　Tel.0267-77-2111　Fax.0267-77-2879
URL. http://vill.kitaaiki.nagano.jp/　E-mail. info@vill.kitaaiki.nagano.jp
◎製作／株式会社 日広　◎印刷／株式会社 杏花印刷

小さい村ならではの豊かな暮らしがある。北相木村には、

あなたのふるさとがここにある

北相木村は長野県の東部に位置し、村土の大部分が森林であり、千曲川の支流、相木川がつくりだす谷間の小さな村です。
ここにある豊かな森や渓流がつくりだす景観や、美味しい空気と水などが、多くの人々に安らぎを与えその価値をますます高めています。
そして、この自然豊かな環境の中に、家族のふるさとを求めて移住する人々が増え、今では人口の約2割を占めています。

この村では30年ほど前から山村留学を実施し150人以上の子どもたちが村で過ごし、いろいろな思い出を胸に巣立って行きました。
2016年からは小学校の先生方の協力、花まる学習会の協力を得ながら"親子山村留学"もスタートさせました。
私は村づくりの基本を「子育てを大切に。地域コミュニティーは小学校から」と考えています。
特色ある小学校は1クラス十数人以下の少人数学級ではありますが、村民みんなの努力で独自の児童手当や高校卒業までの
医療費無料化を実現しています。保育所からネイティブによる英語の一貫教育を行い、授業内容も都会にひけをとりません。
また、給食費の補助、都会から移り住んでも暮らしやすい村営住宅の建設など、私たちは移住を希望する人々を、心づくしの
温かさで迎えてきました。ともにふるさとづくりに汗を流したい。小さい村だからこそ小回りが利く行政なのです。

中部横断自動車道が佐久南 ICから八千穂高原 ICへ延伸し、佐久市が30分圏内となりました。これは就業先が増えることに繋がり、
医療機関、教育機関も広がります。北相木村を星空が美しいベッドタウンと考えてみてはどうでしょうか。
この村で生まれ育った子どもたちが、やがて巣立ち都会で活躍し、帰郷した時には疲れを癒せる場所にしたい。
そこには家族が住み、山や川で遊んだ子ども時代の思い出が詰まっています。コンビニも信号機もない
村ですが、あなたの「ふるさと」にしませんか。

この村勢要覧は、村を知っていただくために制作しました。Iターンの方々が安心して来ていただける村だということを
伝えたい。北相木村の暮らしや村づくりについて、理解を深めていただければ幸いです。

北相木村長　**井出髙明**





上／ビニールハウスでほうれん草を栽培
中／ほうれん草には様々な種類がある
下／ほうれん草の出荷準備

旅行会社の同僚だった
四国出身の奥さんと
お嬢さんと息子さん

移住者インタビュー 01

東京から移住して十数年の茅根さん

何もないよさが北相木にはある

茅根さんは東京出身、東京の旅行会社で旅行の企画立案や添乗員を務め、忙しい日々を過ごしていた。

「季節の移ろいも、昼か夜も分からなくなるほど忙しくて、体力的にも厳しくなり、田舎暮らしがしたいなと。もともと田舎に行きたいなと思っていて、会社を辞めるまで3年かかりましたが、北相木での暮らしは充実していますね」秘境の旅やトレッキングツアーなどを担当していたという茅根さんは、アウトドアも楽しむタイプ。北相木への移住も自然な流れだった。

「長野にきてからは農協で6年働いて、野菜の販売をしていました。独立したのは6年前。今はほうれん草とカリフラワーを収穫・出荷しています。ほうれん草は値段が安定しているので経営の目安が立ち、ハウスなら雨の日でも作業できるしいいかなと思って。最終的には、ほうれん草だけで生計を立てていきたいと考えています」。奥さんには反対されているが、シーズンオフは、ヤギとか飼いたいとか。炭焼きもやりたいらしい。

「地元の知恵をもっと生かした方がいいと言われるが、それはその通りだと思うのです。今、僕は"職業は農家"と答えていますが、そのうち"職業は百姓"って言いたいのです。地元の人は、必要なものはひと通り自分で作っていて、全部やっているのが百姓っていう感じがするのです。今は余裕がないですが、そういう生活を学んでできるようになればいいなと思っています」。

山や川からの恵を大切にし、厳しい大自然と共に生きてきた先人たちの知恵の積み重ねである"山里の文化"。奥深い山の森のような"知恵の森"を巡って、茅根さんなりの山里の暮らしを目指しているのだろう。

北相木のどんなとこが好きですか?と聞くと、「何にもないところが良いと思いました。人も優しい」。そんな茅根さんからIターンされる方々へアドバイスが…。

「長野に来て6年間は別のところで働いていて、最初から就農してなかったのがよかったと思うのです。ある程度、人との関係もできて、ここで大丈夫ってなってからやる方がいいのかなと思う。最初から気負ってくると、そこで疲れちゃうから。それと、人が少ないので、役が多くて大変ですね。外から来る人も自分の好きな面ばっかり見るのではなく、田舎暮らしの責任をある程度受け入れられないと」と、笑顔で語る茅根さん。

将来の夢をお聞きすれば、「自分のやりたいようにやらせてもらっているから、村に求めるというよりかは、やりたいことをやって、それを認めてもらえれば…と頑張っています。地道にちょっとずつ進めて、ヤギも飼って。気が付けば10年、20年経っているのでしょうね」。

K I T A - A I K I

V I L L A G E

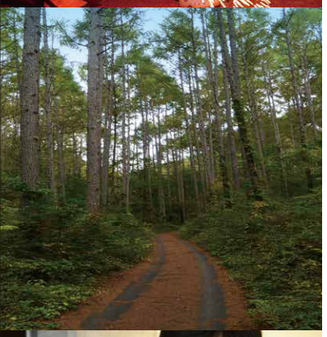
O V E R V I E W

2 0 1 8

村民が輝く小さな村、　信州　北相木村。









CONTENTS

01 ●ごあいさつ
村長からのメッセージ

02 ●移住者インタビュー 01
東京から移住して十数年の茅根さん

03 ●巻頭グラビア
北相木村の四季

05 ●北相木村プロフィールと年間イベント
北相木って、どんなところ?

06 ●移住者インタビュー 02
親子山村留学の石田さん

07 ●豊かな北相木村の姿
手厚い子育て行政

09 ●北相木村データ
北相木村の一般会計予算 統計資料

10 ●移住者インタビュー 03
就農移住者の諸井さんと加藤さん

11 ●豊かな北相木村の姿
快適な生活環境

13 ●北相木村の行政
行政 住民主体の村づくり

14 ●移住者インタビュー 04
移住者のパイオニア 峰尾さん

15 ●豊かな北相木村の姿
安心できる保険と医療

17 ●北相木村議会
住民の声を届ける北相木村議会

18 ●先住者インタビュー 05
四代目農家 木次さん

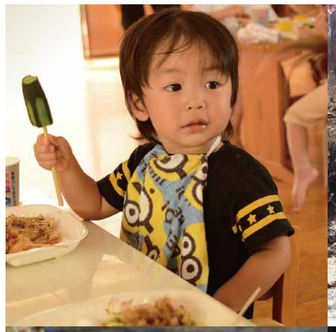
19 ●豊かな北相木村の姿
高齢者福祉

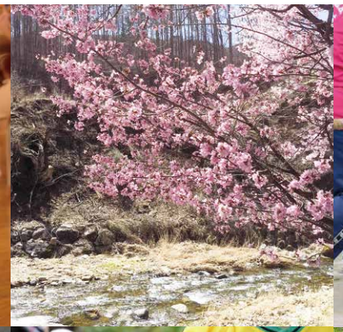
21 ●北相木村の魅力
小須田さんが語る北相木の魅力

22 ●移住者インタビュー 06
新しい林業を・畑中さん

23 ●豊かな北相木村の姿
農業　林業　産業

25 ●豊かな北相木村の姿
観光　遺跡　文化財





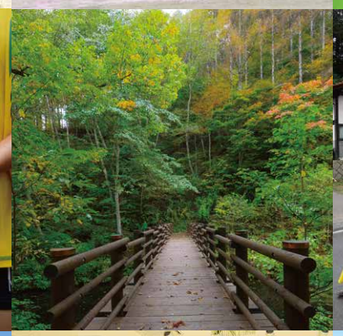
























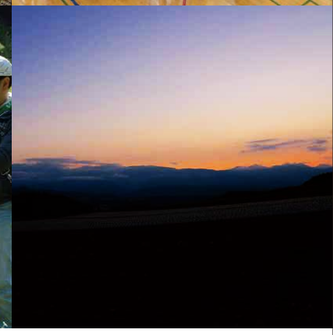












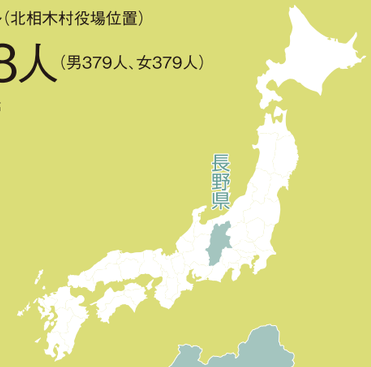
Profile

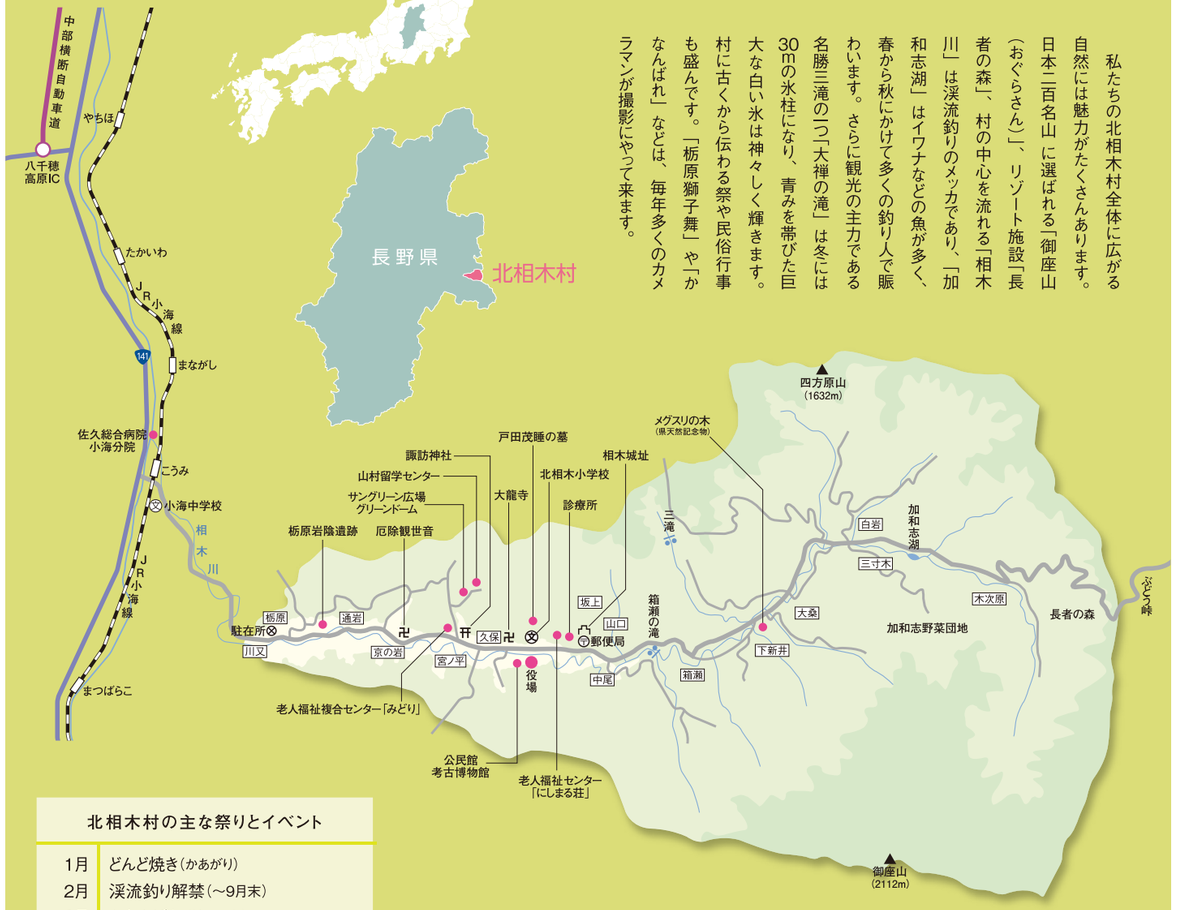
北相木村って、どんなところ？

北相木村は長野県の東端に位置し、佐久穂町、小海町、南相木村、さらに群馬県にも隣接しています。村域は東西12・5㎞、南北4・6㎞、総面積は56・3㎢。東京の世田谷区（58㎢）とほぼ同じ面積です。高山に囲まれ、大部分が森林。御座山から流れ出る相木川を中心に集落を形成し、その標高は900mを超えています。気候は内陸性気候のため晴天率が高く、降水量は年間約1000㎜（東京は1500㎜）。年間平均気温は11・7℃（東京都は16・5℃）で夏は気温差が激しく、また積雪量は多くありませんが、冬の寒さは厳しいのが特徴です。

私たちの北相木村全体に広がる自然には魅力がたくさんあります。日本二百名山に選ばれる「御座山（おぐらさん）」、リゾート施設「長者の森」、村の中心を流れる「相木川」は渓流釣りのメッカであり、「加和志湖」はイワナなどの魚が多く、春から秋にかけて多くの釣り人で賑わいます。さらに観光の主力である名勝三滝の一つ「大禅の滝」は冬には30mの氷柱になり、青みを帯びた巨大な白い氷は神々しく輝きます。村に古くから伝わる祭や民俗行事も盛んです。「栃原獅子舞」や「かなんばれ」などは、毎年多くのカメラマンが撮影にやって来ます。

●北相木村の位置：長野県東端、東経138°33′、北緯36°03′
●総面積：総56.3㎢
●標高：982メートル（北相木村役場位置）
●人口：758人（男379人、女379人）
●世帯数：343世帯
（平成30年3月31日現在）





北相木村の主な祭りとイベント

1月	どんど焼き（かあがり）
2月	渓流釣り解禁（〜9月末）
3月	かなんばれ（流しひな）
4月	厄除け観世音縁日、 長者の森オープン（〜10月末）
8月	成人式 長者の森フェスティバル 諏訪神社夏まつり
10月	村民大運動会（2年ごとに開催） 栃原獅子舞
11月	総合文化祭 健康まつり とうかんや（旧暦10月10日）

●北相木村のシンボル



村花：しゃくなげ（つつじ科）
初夏の高山に咲く淡紅色の花は特に美しく、村を代表する山の御座山を中心に群生しています。村章はこの花を「北」に図案化したものです。



村木：からまつ（マツ科）
天然からまつ、人工林をあわせて村内森林の大部分を占め、春先の芽吹きのカラマツ林はどの季節にも増して美しく輝きます。



村鳥：やまどり（キジ科）
全身赤銅褐色で美しく、村内山地に生息しています。「山鳥の尾のしだり尾の…」と古歌にも詠まれた雄の尾長の美しさは目をみはるものがあります。

移住者インタビュー 02

親子山村留学の石田さん

上／野球が大好きな長男のスバル君。
中／北相木村山村留学第三十一期修村式に臨む長男のスバル君。
下／お母さんは3年前に北相木にやってきた親子山村留学の一期生。今年、長男のスバル君と共に修村した。



石田さんと二人の息子さん。
「本当は来たくなかった」という長男のスバル君。しかし山村留学に来たとたん友達ができ、北相木村の大自然の中で学び遊ぶと「本当にいい所…と思うようになった」とか。次男のヒカル君は自然豊かな環境が気に入り、山村留学に残るという。

男の子なので、たくましく育ってほしいなって…いうのが一番

東京の墨田区在住の石田さんは滋賀県出身。自分が育った環境と、子供の東京での環境があまりに違うことに戸惑っていた。そんな時、「花まる学習会」の代表の高濱正伸先生の講演で北相木の山村留学のことを聞いた。留学前に北相木村に来たのは2日間という。

「子どもが男の子なので、たくましく育ってほしいなと思っていたから、山村留学はいい機会なのではと思いました。翌年から親子留学を始めました。移住と違い、留学は4月1日から3月31日までと期間が決まっているので、計画的に暮らさないとという気持ちになるので背筋が伸びます。夏は畑を借りて野菜を育ててますよ」。

コンビニも何もない村。しかし便利さを求めてきたわけではないので、無くても何とかなると思った。滋賀県の祖母は石田さんの行動力に驚いたが、山村留学にはとても肯定的。いい所だねと言って子どもたちが元気でやっていることを喜んでいる。

「東京は北相木から3時間くらい。特に夏休みや冬休みに帰るということはしていません。週末に用があれば帰ったりするくらいかな。簡単に行き来できる距離なのも気軽に山村留学できるメリットなんじゃないでしょうか。子どもの東京の友達は塾に行っているので、たまにかえって公園に行っても友達がいないので少し寂しい様子ですね。北相木は移住者が多いし、村をあげて山村留学に取り組んでいるので、ポッと入っても〝誰かまた来たな〟という感じで気負いがなくてとてもいいです」石田さんは山登りやアウトドアが好きで、自然いっぱいの北相木では釣りをはじめまだまだやりたいことがたくさんあるようだ。

「北相木村にきたばかりの頃、子どもたちの活動に親がもう少し参加できたらなと思うことがありました。でも生活スタイルが全然違うし、他の親御さんがいない中に行くのはちょっと違うのかもと思ったりして、考えが変わった部分もあります。それでもセンターの子たちはいろんな活動をしているので、一緒に関われたら嬉しいという想いもあるんですよね。難しいかなあ」村での暮らしに慣れてきた今だからこそ言えるちょっとした要望だ。

そんな石田さんには実際に親子山留をやってみてのアドバイスがある。

「どうしようかなって悩んでいる人も多いと思うんですけど、考えすぎると動けないんじゃないでしょうか。とにかく来てみたらいいと思う。村の人は温かいし、子供のためには絶対にプラスになるのでオススメです。とてもいい経験になりますよ」

《豊かな北相木村の姿》

手厚い子育て行政

子どもは村民みんなの宝物。

写真：保育園の豆まき



《子育て関連の補助金》

- ◎出産祝い金10万円
- ◎高校卒業までの医療費全額補助
- ◎保育料の1／2補助
- ◎学校給食費の1／2補助
- ◎高校生以下の村営バス運賃無料
- ◎五島列島体験学習にかかる費用（負担金1万円を除く全額）
- ◎高校生1人 月額1万5000円、大学生等1人 月額5万円 育英資金貸付







左／北相木小学校と花まる学習会による「あおぞら教室」　右上／小学校スケート教室　右下／お餅をもらってパクパク

子どもたちの未来のためにできること

北相木村には「かなんばれ（ひな流し）」など子どもの成長を祈る民俗行事が受け継がれてきました。それは「子どもは村民みんなの宝物」という考え方が伝統的に根付いているからこそなのです。

北相木村では出産から育児、保育、学校教育、医療など子供に関するさまざまな事柄に関して補助金を用意し、子育て世帯の負担軽減を行うという「手厚い子育て行政」を展開しています。その代表的な例が、高校を卒業するまで医療費は全額補助金でまかなわれるという福祉医療費制度です。また、出産祝金や北相木村学校給食補助金など、これらは全て村の予算でまかなわれています。昨今、「子育ての社会化」が国の施策として検討されました。子育ては夫婦や家族の問題と捉えられがちですが、社会全体で補い合っていこうという考え方です。北相木村はその点において先進的な地域であり、村をあげて子育てに必要な様々な援助をすることで少子化対策の柱としてきました。

保育所

北相木村保育所は定員は30人と少ないですが、自然に恵まれた環境の中で園児たちは仲良く生活しています。保育料に関しても北相木保育園に入園している子全員に対して、その半額を村は補助しています。また、若い母親の就労を支援するため、3歳未満児保育を実施しています。英語教育にも力を入れており、村の職員であるネイティブの英語指導助手が英会話を指導しています。一か所だけの保育所だからこそできる充実した保育を実現しています。

（各家庭負担金1万円以外は村が補助）に向かいます。村では体験できない飛行機やジェットフォイルなどの乗り物に乗り、海釣りやシーカヤックなどで島の小学生と交流、代わりに冬には五島列島の小学生がスキー体験等に北相木村を訪れます。

中学校は、小海町にある小海町北相木村南相木村組合立小海中学校に村営バスで通います。

小学校

小学校は基礎的学習内容の習得を基盤としつつ、恵まれた自然とふれあいながら、一人一人の自主性と創造性を育む教育に力を入れています。1クラスの児童数が十数人未満と少ない人数ですが、児童一人ひとりに目が行き届いていると、山村留学の保護者からも好評を得ています。

また、保育所入所時から一貫した英会話学習を行ったり、パソコンを使ったインターネット関連の学習も充実させるなど、国際化・情報化社会に対応できる能力を身につけられる教育を展開しています。さらに毎月1回、民間学習塾の「花まる学習会」と提携し、講師を招いて数理的思考力・国語力を養う「花まる授業」を取り入れることにより「魅力的な大人」への成長に取り組んでいます。

6年生は、夏に長崎県五島列島新上五島町に5泊6日の体験学習

山村留学

北相木村では、山村留学制度を取り入れて30年になります。これまでに巣立った子どもは150名以上。平成29年度は留学の継続を希望した中学生1人を含め、30人が留学していました。

そもそも山村留学とは、都市部の小学生が親元を離れ一年間村に滞在し、村の小学校に通いながら自然の中での体験や集団生活をとおして、豊かな人間性を養うプログラムです。ここでの生活は北相木小学校に通いながら、村営の山村留学センターと地元の受け入れ農家で過ごします。四季を通じて自然体験を中心に、農業体験や地域の伝統行事に参加し集団での生活や協調性を学ぶのです。これにより、心豊かで心身ともに健やかでたくましい人間形成を目指しています。



山村留学修村式



小学校卒業式



保育園卒園式

形と色とりどりの菊

移住者インタビュー 03

就農移住者・諸井さんと加藤さん

人が優しくて農業にもチャレンジできる村

北相木村で唯一電照菊を育てている諸井さんと加藤さん。諸井さんは東京出身、アミューズメント店の営業だった。北相木に移住して2年目。こちらは寒いけれど人が優しいという。加藤さんは埼玉県蕨市出身で、前職は介護職。二人は移住の農業体験で出会った。そんな二人に初めての農業の感想や、村について思うことを聞いてみた。

Q／二人の趣味は何ですか？

諸／スノーボードで、6、7年やってます。思いっきりできると思い来たっていうところもあります。

加／山登りで高校の時にワンダーフォーゲルに入ってからなので18年くらい。クライミングはしないんですが。長野県は最高の場所だなって。

Q／ということは二人とも信州に違和感はないですか？

加／ないですね。川上村の国民宿舎に毎年来ていたので、北相木は知っていたんですよ。それと信州は食べ物が美味しいです。

諸／そうそう。信州は食べ物がおいしいですよね。初めて熊の肉やウサギの肉を食べさせてもらった時はおいしくて驚きました。都会だと、ほぼ食べられないでしょ。それが普通に食べられる。実は狩猟免許も取りたいと思ってるんです。

Q／北相木はどうですか？

諸／人間関係が素晴らしいです。この人嫌だなと思う人が一人もいない。あ、でも虫は嫌いです。土も嫌い。電照菊の栽培はビジネスなので、苦ではないですけど。

加／自然がいいですね。それと皆さんの人当たり…優しい人が多い。困った時に声をかけてくれる。

Q／農業は難しいですか？

加／もともと土いじりは好きで、埼玉にいた時からプランターで野菜を作ったりしてました。将来的に仕事にできたらいいなと漠然と思ってました。実際にやってみて、みなさんから聞いたり、研修を通して学んだことは、すごく力になってます。自分たちの栽培方法は、従来とは方向が違うので、なかなか想定通りにいかないこともあって。大変ですが、作物となって出荷したときはうれしいです。

Q／初出荷はいつでしたか？

諸／7月の中頃で、出荷先は農協です。買取価格は時期によって全然違うんですよ。冬は大産地の出荷があり価格は下がるんですが、大産地がでない夏に花を出して稼ぐというのがこの辺のセオリーですね。

Q／就農に関して村のバックアップは？

諸／役場の方には親切にしてもらってます。電照菊という新しいことを始めたので農協の方にも特に目をかけてもらっていて、ありがたいです。今はいろんな種類で、この土地に合うものを探してるんです。品種によって特性が違いますから。

加／お互いに菊の中で11品種くらいやってるかな。色であったり、立ち方というか、短いのもあれば、必要以上に伸びたりします。育てやすさ、病気への弱さ、強さっていうのもでてきて。頼んでいる苗なので、気候にあうかどうかは試さないとわからないと思い、たくさんの種類を育ててます。

Q／村への要望はありますか

諸／人口減少を止めてほしいです。村民の年齢が高いので、もう少し若い人がいられる施策を考えてほしい。仕事を探すのは大変かもしれないが、起業する手もある。そして人が集まるきっかけがほしいですね。これだけいい山道があるので、例えばサイクリングのイベントを考えても面白そう。

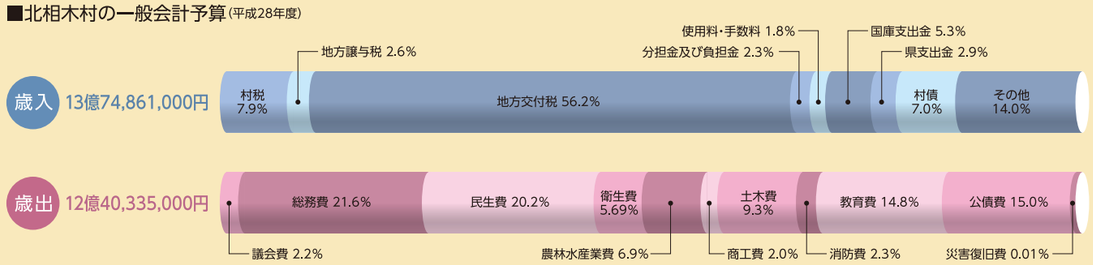
加／村の中で遊びに行こうかなっていう場所が欲しいですね。出かけるとなると、長者の森だけになるし。移住者が増えてきても、そういう遊び場があれば移住者同士のコミュニケーションのきっかけにもなるでしょうしね。



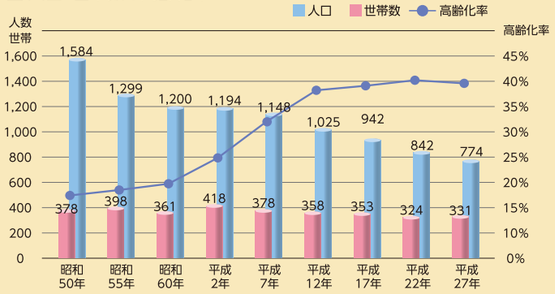
Data

北相木村の一般会計予算 統計資料

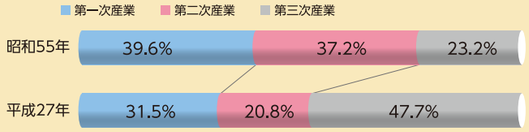
■北相木村の一般会計予算（平成28年度）



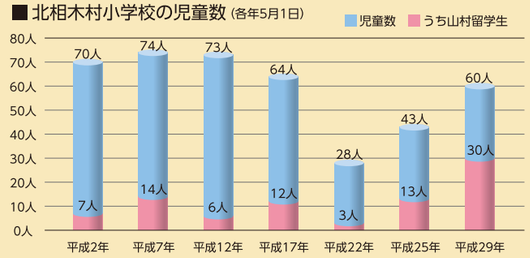
■ 人口・世帯数と高齢化率（資料：国勢調査）



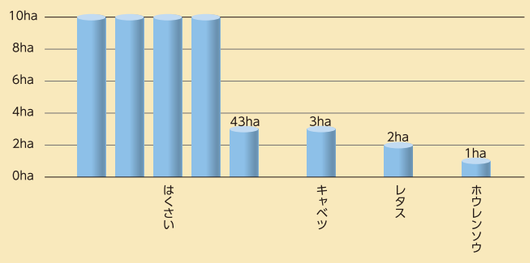
■ 産業別人口比率（資料：国勢調査）



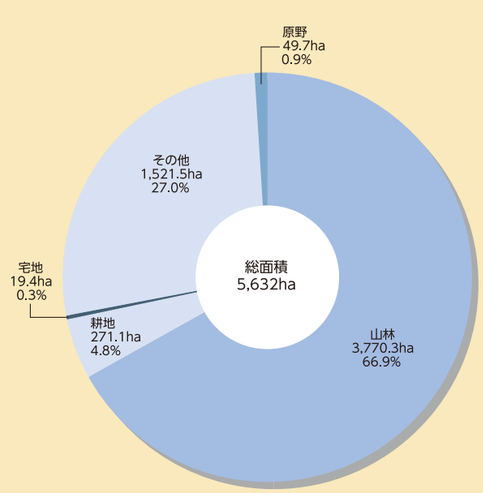
■ 北相木村小学校の児童数（各年5月1日）



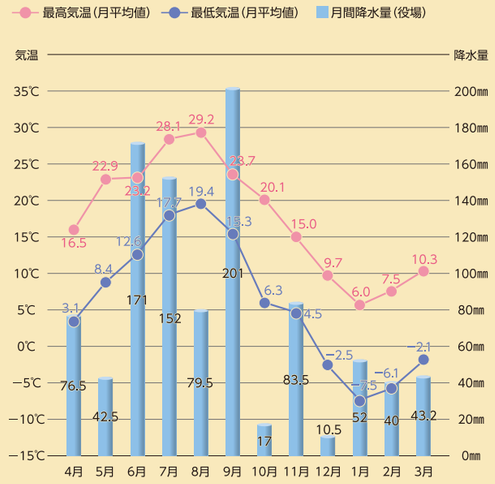
■ 主な野菜の作付面積（平成2015年農業林業センサス）



■ 土地利用区分面積（資料：長野県統計書 平成27年度）



■ 北相木村の気象（平成27年度）



《豊かな北相木村の姿》

快適な生活環境

豊かな自然だからこそ、快適な生活を。

《生活環境関連の補助金》

- ◎太陽光発電設備1kwあたり27.5万円補助、限度額110万円
- ◎薪ストーブ等設置費用の1／3以内補助、限度額20万円
- ◎合併処理浄化槽設置に669,000円～1,226,000円補助
- ◎合併浄化槽管理費一律年1万円補助
- ◎公営住宅家賃補助5,000円～22,000円 ※条件あり
- ◎村営バス運賃一律100円（70歳以上および高校生以下は無料）



〈写真〉村役場、小学校がある村の中央部



村営バス



マンションタイプの村営住宅



戸建タイプ村営住宅

暮らしやすい環境を

私たちは、田舎だからこその便利さ・快適な暮らしを求めて、インフラの整備や防災対策を進めています。その中の一つとして、自然エネルギーを積極的に取り入れる施策をはじめました。まずは太陽光・太陽熱のエネルギーの活用です。佐久地方は全国的にみても雨が少なく晴天率が高い地域です。太陽のエネルギーを利用するには最適の立地です。そこで公共施設に太陽光発電システムを導入するとともに、各個の住宅への設置に対しても補助金を交付して普及を進めてきました。その結果、太陽光発電の普及戸数は132戸に達し（平成29年現在）、全戸数の40%を超えています。このほか、ペレット・薪・カラマツストーブの設置や生ごみ処理機設置の補助を行うなど、自然環境や生態系に配慮しながら、暮らしの快適さを求める独自の施策を推進しています。

また、限られた予算の中で自分たちにできることは自分たちでしようと、年2回村道の維持補修などを地域住民が共同で行っています。

北相木村は村土の大部分を占める豊かな山林と、そばを流れる相木川の清流に恵まれています。私たちはこの豊かな自然と共生し、その恩恵を受けながら生きてきました。今、日本中で人の手が入らなくなった里山の自然崩壊が問題となっています。生活スタイルの変化や、時代に合わせるように便利さを求めた結果、人と自然の関係が維持できなくなったからでしょう。私たちは私たちの周りにある自然エネルギーを無理なく利用することで、村の宝である自然との共生をはかっているのです。

上下水道

村内には7か所の湧水があります。それを水源とする簡易水道を上水道として利用しています。村を訪れた方は「水道水が冷たくておいしい」と驚かれることがしばしば。この貴重な水資源を守るために重要なことは、水源かん養林の保全です。北相木村の森林は雨水を吸収して水源を保ち、併せて河川の流量を調節するために重要な役割を担っているのです。

公共下水道は、導入に初期費用も維持費用もかさむため、小さな村では導入が難しく、国の補助があってもその負担は膨大なものになります。そのため、下水道は公共下水道ではなく、一戸ごとに管理する合併処理浄化槽です。各家庭で合併処理浄化槽を設置してもらっています。浄化槽の設置・維持には補助金で支援しています。

村営住宅

北相木村ではIターン希望者を積極的に受け入れていますが、そのためには希望者のニーズを的確に反映した、快適に暮らせる住宅を確保しなければなりません。これまでは一戸建てを中心に整備してきましたが、単身者や若い共働き家庭でも住みやすい、マンションタイプの村営住宅の建設も始めています。村営住宅は戸建タイプ47戸、マンションタイプ3棟28戸、メゾネットタイプ2棟4戸、計79戸（平成30年度現在）あります。若者の定住促進のため、全戸に光回線を、また家賃の補助や新築・改築への補助もあります。

また、Iターン希望者のなかには村にある古民家を借りたいという人もいます。しかし、所有者が村外に居住しているため、その調整がなかなか取れないのが現状です。

村営バス

村内でもっとも東の集落である白岩地区と、佐久総合病院小海分院の間で運行しています。村民は全区間100円で利用でき、70歳以上と高校生以下は無料です（条件有）。村営バスは子どもの通学や高齢者の通院など、車を利用できない人にとっては欠かせない〝足〟なのです。



水源のある御座山の森



宮ノ平地区から御座山を望む

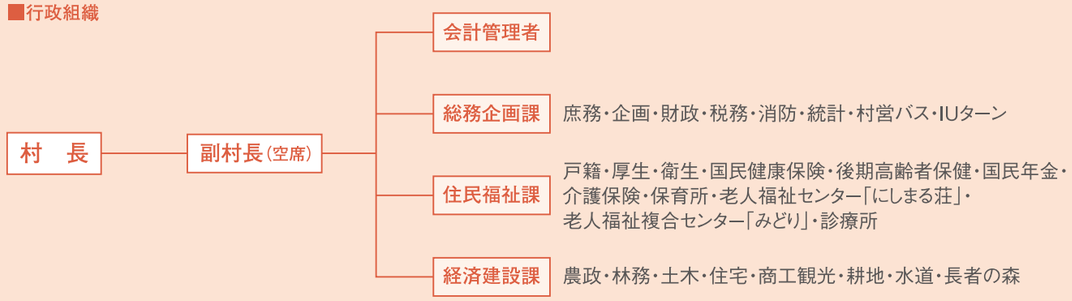


村から望む八ヶ岳

Village Administration

行政　住民主体の村づくり

■行政組織





北相木村消防団

広報広聴と住民対話

村では情報公開条例を制定するとともに、ホームページやCATV、公民館報などを通じて、広報活動を強化してきました。また、住民と直接対話ができる場として、若者や女性も参加しやすい地区懇談会を設け、公聴活動も充実させています。「住民主体の村づくり」を進めるためには、さまざまな行政情報が住民に伝わっていなければなりません。

さらに、計画等の素案作成の段階で村民の自由な意見やアイデアを取り入れられるよう広聴に努め、具体的な政策立案や施策の推進に当たっては、審議会や協議会に参加できる村民枠を拡充しています。



CATVスタジオ

コミュニティ

北相木村は、栃原、京の岩、宮ノ平、久保、坂上、中尾、山口、下新井、白岩の9つの地区（集落）からなり、マレットゴルフ大会や村民運動会なども地区ごとに参加するなど、一定の連帯意識を共有しています。村は、各地区の自主的な活動を財政的に支援するとともに、連帯感を醸成できるような交流機会の充実に努めています。

各地区には集会所となる公民館の分館があり、その管理・運営をはじめ、地域の河川美化や道普請など、村民の協働による自治活動が行われ、「住民主体の村づくり」の基盤になっています。とくに硬直化した運営によって、新規定住者が疎外されることがないよう、新村民と旧来からの村民、若者と高齢者など、異なる住民層の親交を深められる活動、交流機会を充実させていきます。



地区のコミュニティは村づくりの基盤





上／薪ストーブのある暮らし
下／廊下は物置兼書庫

移住者インタビュー 04

移住者のパイオニア 峰尾さん

村民同士の繋がりを大切にして安心な村づくりをしたい

廃校になった小学校に住む家具作家の峰尾勝巳さん。家具工房「夢屋」を開いている。昭和28年生まれの三鷹出身。峰尾さんは昭和61年からこの場所に住み始めたという。

「小学校に住み始めたのは仕事場に広い板の間が取れるから。あと、学校は安全で立地条件のいいところに建ってると思って」。



住まいは廃校になった小学校の校舎

家具作家として地元の木材カラマツを使用した家具を作り続けているが、10年くらい前から安い家具屋が出てきて値段が合わないのが現状だ。

「今は自分の想いに合う人の仕事をさせてもらってる。若い人にはカラマツを使った家具や建築物を作ろうと薦めてるよ。みんなカラマツの特性をわかってないからね。もっと職人が増えて根付けばいいなと思ってる。協力は惜しまないよ」。

移住した時は独身だったが今は奥さんと3人の子どもがいる。家族の生活はユニークだ。

「奥さんは東京、末っ子は1年の半分は日本で働いて残りは海外へ行くし、真ん中は渋谷のベンチャー企業。一番上は秋葉原でバンドをやってるよ」なんてアーティスト揃いの家族なのだろう。

「うちの家族なんてまだまだ。田舎に住むおじいさん達の方がよっぽどアーティストなんじゃないかな。生活がとてもクリエイティブだよ。なんでも自分で作り出せるんだから」自分の生活を自分でクリエイティブできる、これが本当のアーティストだ。



リビングは元教室

「北相木に住んで30年。当時は誰も自分に構わなかった。放っておいてくれたからこそ、自分から村の人に話をしに行くことができた。それが打ち解けるきっかけになったんだよ」そんな峰尾さんは今では村議会議員。彼の願いはお年寄りを安心させられる地区を作ること。

「子どもが出来た時に村の人たちにすごく助けられた。その時、この村の人の優しさに触れたんだ。住民コミュニティーは絶対に大切にしたいんだよね」高齢化の進む村だからこそ、お年寄りを大切にする場所を作りたいのだ。

「若い移住者は2年くらいで入れ替わる。居つく人もいれば居つかない人もいる。それは当然。それでもIターンしようとしている人には、気軽な気持ちできて欲しい。村の良さは5年くらいいないとわからないかな。その先はそれから判断して欲しい。村の人は寡黙なのではじめは怖いことばかり言うけど、実はみんなすごく優しいから。田舎暮らしの良さは自分で気づいて欲しいな。2、3年目くらいが一番きついけど、10年過ぎれば面白くなるよ」

《豊かな北相木村の姿》

安心できる 保健・医療

乳幼児から高齢者まで、村民全てが健康な暮らし。

健康まつり



〈写真〉健康まつりで販売された信州ポーク。北相木村産の豚肉で健康的な食生活。

《保健・医療関係の補助金》

◎妊婦健診費用12,6470円助成
◎不妊治療 総額で150万円まで補助
◎人間ドック一律1万5000円補助
◎鍼灸施術所施術料　基本金額の1／2補助
◎障害者、母子・父子家庭、及び全世帯主の医療費補助

《各種検診の助成》

◎集団ヘルススクリーニング／3,000～11,000円全額／500円の自己負担を除いた全額
◎胸部レントゲン／約1,500円／全額
◎大腸がん／約2,000円／全額
◎胃バリウム検診／約4,000円／500円の自己負担を除いた全額
◎子宮がん／約5,000円／500円の自己負担を除いた全額
◎乳がん（超音波）／約4,000円／500円の自己負担を除いた全額
◎乳がん（マンモグラフィー）／約6,300円／1000円の自己負担を除いた全額
◎胸部CT／約6,000円／500円の自己負担を除いた全額
◎胃内視鏡検査／約12,600円／5,000円の自己負担を除いた全額



佐久総合病院小海分院（小海町）



明るく薪ストーブのある診療所待合室



北相木村診療所

長野県は日本国内において平均寿命の長さが女性は1位、男性も2位と名実ともに長寿県として知られています。ただ長寿なだけでなく、一人あたりの老人医療費も日本で一番安いのです。その背景には、野菜を中心とした食生活や高齢者の就労率の高さなどがあげられていますが、佐久総合病院が先頭となって取り組んだ予防医学の地域指導の歴史もあり、〝生活習慣病の対策に有効だった〟ともいわれています。

北相木村は「長寿県長野」の一翼を担う村です。美味しい水、美味しい空気もその要因の一つでしょう。この村の医療は、佐久総合病院を頂点とする医療ネットワークの中にあります。都会のように多くの医療機関を選択できるわけではありませんが、平時だけでなく救急時にもきちんと対応してくれる医療があります。

もちろん今が十分な状態ではありません。生活習慣病は北相木村でも増加傾向にあります。各種検診の受診率を上げる活動と合わせて、一部の検診は村で補助をしています。また、保健相談を充実させるとともに、健康まつりを行うなど、村をあげて健康づくりに取り組んでいます。

医療

村営の北相木診療所が村で唯一の医療機関であり、佐久総合病院から医師が派遣されて常駐しています。内科を中心に多くの疾患を診る診療所で、アットホームな雰囲気。待合室では日々茶のみ話に花が咲き、用がなくとも人々が集まる〝健康〟をテーマとした村の寄り合いところなのかもしれません。休日・夜間の診療は連携している小海分院で、救急医療は佐久総合病院本院（佐久市臼田）、佐久医療センターおよび小海分院で対応しています。

村では診療所に隣接する老人福祉施設「にしまる荘」には、佐久総合病院東洋医学研究所の鍼灸施術所があります。診療所からの紹介で受診でき、費用は村の補助があるので半額ですみます。

健康づくり

各種検診への助成制度は村の誇りです。12万6470円を助成する妊婦健診をはじめ、40歳以上の大腸がん検診は全額補助、そのほか自己負担500円で受診できる検診も多数あり、病気の早期発見に対してはとくに力を入れています。

また、乳幼児から高齢者まで、村民全てが健康な暮らしを続けられるよう、さまざまな機会に啓発活動に取り組んでいます。その一つが毎年秋に開催される「健康まつり」です。色々な健康チェックができるブースが設けられます。毎年このまつりを機に、自分や家族の健康を考えるようになるのですが、村民同士が楽しく交流しながら健康づくりへの関心を高める機会にもなっています。

スポーツ施設も充実しており、アリーナやフィットネスマシンを備えたトレーニングルームなどがあるグリーンドーム（北相木村民交流スポーツセンター）やサングリーン広場（村民グラウンド）があり、サングリーン広場では2年に1回、親睦を目的とした村民運動会が開催されます。



2年に1回の村民運動会



グリーンドーム



北相木村議会 議員

村民の声を行政へ 活き活きと笑顔で いられる村づくり

北相木村の村議会は村民によって選ばれた8名の議員で構成されており、条例の制定や予算の議決など重要事項を決定している。それぞれの立場で審査・調査活動を行い、村民の声をきちんと反映させた村づくりを審議し、適正な住民サービスを維持できるように努めている。

年4回の定例会のほか、必要に応じて臨時議会が開催され、議員は総務委員会と経済委員会の2つの常任委員会のいずれかに属して活動をしている。

髙見澤一好議長と井出法雄副議長に村の現状についてお話を伺うと「現在、北相木村の人口の2割弱がIターンで移住した皆さんと、山村留学生の子どもたちです。山村留学は30年ほどの歴史があり、150人以上の子どもたちが村で過ごし巣立って行きました。皆が北相木村を我がふるさととして思っているようで、実に嬉しい限りです。また、北相木村の自慢は小学校です。1クラス十数人前後の少人数ですが、児童一人ひとりに目が行き届き、先生と児童との距離が近い中で授業が行われます。さらに山村留学センターのスタッフとの連携も確立されているのが特長です。子どもは宝ですよ。子どもがもっとたくさんいる村にしたいです」と髙見澤議長。

続けて井出副議長が「このまま少子化が進むと、村の伝統の祭りの〝かなんばれ〟や〝栃原獅子舞い〟など、無形文化財が伝承できなくなってしまうし、地域のコミュニティが消えてしまう…と危惧しています。それでも、議長のお話の通り希望はあるので」と。

これからの村づくりは…と聞くと、髙見澤議長は「最初に山村留学生として来た皆さんが、現在は40歳を過ぎています。結婚しお子さんができた方もおられると思いますが、その子ども達が山村留学を希望し、親御さん達と同様に北相木村に来てくれる、そんな村になればこれほど嬉しいことはないですね。Iターンに対しても考えは同じです。Iターンで移住した皆さんの次の世代が、この村で安心して暮らしていける、そんな村にしたいです。また、2018年4月に中部横断自動車道が八千穂高原ICまで延伸するので、都心の皆さんが北相木村に、今まで以上に気軽に来られるようになるのではと期待しています」と、伝統の山村留学を核とした村づくりを目指しているとのこと。

井出副議長は「北相木の広大な自然は空気を美味しくし、水も美味しくし、豊かな恵みをもたらしてくれています。だからこそ村民は長寿なのかもしれませんね。この美しい村を村民と一緒にもっともっと盛り上げていきたいんです。村民の声を行政へ丁寧に届ける。村民のみんなが活き活きと笑顔でいられる村を目指していきます」と村づくりの方向を語ってくれた。



高見澤一好議長（右）と井出法雄副議長（左）



北相木村議会 議場

先住者インタビュー 05

四代目農家　木次さん

左／わら馬づくりに忙しい時期。わら細工の技術の伝承も積極的
中／木次さんの作業場にあるわら細工「猫つぐら」と「籠」
右／畦道の土手に地ハチの巣を見つけ「巣を採って蜂の子を味わうか」と木次さん



八ヶ岳を望む木次さんのトウモロコシ畑

村の風土を 生かした仕事で 昔のような賑やかな村を

農家の木次さんは美味しいトウモロコシを作るプロ。畑は標高1000mにあり、八ヶ岳が美しく見える。木次さんで4代目の農家だ。害獣防止ネットを張ったり鹿対策もして、作物は様々なものを作っている。畑は粘土質なのでモノつくりには大変。ここ20年は洋物野菜が流行っていたが、自分は今までのものをより美味しく作るということにこだわっている。

「私の青春時代に比べると今は寂しい北相木になったよ。自然環境は今よりもっと豊かだったんだ。木の枝を竿にしてバッタでイワナを釣ったよ。役場周辺の川でいくらでも釣れたんだ。それは面白かったよ。御座山には大晦日に紅白歌合戦を見たあと毎年登ったね。耕運機に仲間を乗せてすそ野まで行って、ご来光を眺めるために山頂に登った。あまりにも寒くて、ポケットボトルのウイスキーを持って行ったんだ」青春時代を目を輝かせて語る姿は眩しい。

議員を1期務めたこともある。村を活性化させようと思いデイサービスとグリーンドームを整備することに携わった。

「当時はママさんバレーが活躍してて、そういう人たちに北相木を知ってもらうために、村に来られる施設をつくらなきゃダメなんじゃないかと思ったんだ。その時は、グランドと並行して作ろうってことになって、約10憶くらいかけて作ったかな」グリーンドームは今も村のスポーツ施設として活躍している。

村を活性化させるには村で働ける場所を考えた方がいいと話す木次さん。「カラマツがこんなにあるんだから、丸太にしてどんどん外に出すんじゃなく、村で加工したりする方法を考えた方がいいよ。いわゆる6次産業化っていう経営だね。全国に売り出せるように市場を調べて製品を考え、企てる計画、企画ってやつをちゃんと構築して、生産・加工・販路開拓など考えで実行する。そう、消費者の声を聞いて修正するところは修正するんだ。すると産業間や地域間の連携が生まれるじゃないか。そうすれば働ける場所も生まれてくる。こういうことにはお金がかかっても当然いいんじゃないかと思う」さすがは地方創生メンバーに選ばれている人だ。

「空き家対策についてももっと考えて欲しいよ。リフォームして、移住してきた人にはそこに住んでもらうのがいいんじゃないかな。今は不思議な世の中だよね。都会には林業に関わる仕事が好きだっていう若者も大勢いるんだよな。移住してきて薪で暮らしたり。そういう人たちなら村で働けるところを作れば来てくれるようになるんじゃないかね」村への要望はまだまだ尽きない。

高齢者福祉

長生きできることは、幸せな社会と思って欲しい。



〈写真〉長寿を祝う元気なお年寄りも多い

「みどり」の快適なリビングルームでディサービス





老人福祉複合センター「みどり」と生活支援ハウス



日当たりが心地よい居室

私たちが村づくりで心がけていること、それは年老いてもここで暮らしたいと思ってくれる人たちに、可能なかぎり不自由なく暮らせる環境を用意することです。高齢化は社会問題であり、とくに過疎地ではより深刻な問題となっています。北相木村でも平成27年の国勢調査で65歳以上の老年人口割合は約40％です。今後もさらに進むことが予想され、健全な地域社会をどう維持していくかが大きな課題です。北相木村のお年寄りは農業に精を出したり、お年寄り同士が集まってスポーツを楽しむ元気な方も多く、いつまでもそのままでいられるようなサポート体制を整えなければなりません。今できることは、自宅で介護をしている家庭に車いすや介護用ベッドなどの福祉用具を貸与し、介護する人を支えるために月2万円の報奨金を支給したり、高齢者住宅の改良費補助を行なっています。また、ひとり暮らしの高齢者向けに管理栄養士による「ふれあい料理教室」を開いています。たまに子どもたちとの交流の場にもなっています。

村では要介護認定を受けた人だけでなく認定外のお年寄りであっても、支援を必要としている人には適切なサービスを提供できる体制をめざしています。

現在北相木村には、デイサービスなどの介護サービスを提供する老人福祉複合センター「みどり」と、老人ホームはありませんが、ニーズが高まれば設置を検討していきます。

これらの対策を行いつつも希望はあります。近年北相木村に移住する人や山村留学の子どもたちがいるため、村の高齢化率は下がる傾向もみられるのです。

老人福祉複合センター「みどり」

その人がその人らしい生活ができることを目的とし、本人が望む生活を支援しているのが老人福祉複合センター「みどり」。御座山がよく見える丘の上に建つ介護サービスの拠点施設で、デイサービス、ホームヘルプ、高齢者家庭への配食サービス、ケアマネージメントなどを行っています。併設している生活支援ハウス（居住部門）全13室では、村内のひとり暮らしあるいは高齢者夫婦のみの世帯で、生活に不安のある人（要介護2以下）が暮らしています。3食付きで、利用料金は世帯の収入によって決められています。

老人福祉センター「にしまる荘」

施設内にはさまざまな活動に利用できる部屋や、天然温泉と似た成分のトゴール湯があり、村民はだれでも無料で利用することができます。診療所に隣接しており、鍼灸施術所も「にしまる荘」内にあります。鍼灸施術所は佐久東洋医学研究所（佐久総合病院）から週に3日先生が派遣され、その施術費用は村からの補助。学童が放課後に立ち寄り、高齢者と子どもたちの交流の場にもなっています。



老人福祉センター「にしまる荘」



村民なら誰でも無料で利用できる



トゴール湯

《高齢者・障害者福祉関係の補助金》

- ◎村営バス運賃70歳以上無料
- ◎家庭介護用品購入費　年額2万～3万円補助
- ◎配食サービス夕食450円のうち200円補助
- ◎福祉タクシー年額3万6000円補助
- ◎福祉用具の一時貸与
- ◎にしまる荘トゴール湯無料


小須田さん

人と人の交流と信頼関係が、活性化につながる。

「私は1年が365日ある中で、250日くらい村にいませんよ」と言う相木商会小須田社長。北相木村の特産を知ってもらおうと奔走しており、市場競争相手は全国だと言う。

「収益があがるのは白菜・レタス・キャベツに集中していて、北相木村の特産として本来地域に根付いていた長芋などの生産が少なく加工・販売ができないことが残念。農産加工は、どのくらい特性や特徴がある商材かで市場競争ができるから、消費者が本当に必要なものを作らないと競争にならないんだよね。地元にある企業や生産者に、部分的な必要な投資をしてくれればチャンスはいっぱいあるのだけど。現実はなかなか難しいね」。

相木商会では様々な商品を取り扱っている。漬物やおやき、ジュースやジャムなど様々だ。軽井沢の旧軽銀座に販売店を出店し、全国からやってくる古くからの別荘客や、観光客を相手に農産加工品を販売している。舌と眼の肥えたお客さんばかり。そのお客さんとの信頼関係の構築は何気ない会話の交流からだ。食文化や農産物、風土や農産加工品技術、味覚、海外での経験などの深い知識がベースとなるという。

「ジュースは果物の栽培から手がけてるよ。カシスは栽培を10年くらいやっていて、カシスとブルーベリーとブラックベリーを合わせたジュースは年間360リットルくらい販売してる。以前、商品の価格を自分たちで決められなかった時期があってね。でも消費者との信頼関係を結べば、適正な価格で商売は成り立つんだよ」。

あるイベントの時、たくさんの人が集まっていて、どんな生産者なのかを知りたがっていた。


大手洋酒メーカーで海外にあるレストランのマネジメントをしていたという経歴など、知識と話題は豊富だ

「生産者が直接消費者と話すことができるチャンスなんだよね。作物へのこだわりを伝えたり、野菜の味を聞いたり、生産者と消費者の信頼関係は、そういった何気ない場でも作ることができるからね」。

そんな小須田社長は、村の活性化も消費の場と絡めていけば、面白い展開も必ず出てきて、これから必要な考え方だと思っている。直売所で商品をただ販売するのではなく、そこに皆が楽しめる場所の提供をしたらどうかというのだ。

「みんなが集まる場にお金を掛けることは、さらに活性化に繋がるんじゃないかな。ご高齢の方にも参加してもらってさ。いろんな話をしてもらって、そこで若い人に何かを伝えていくのが年をとった者の務めだよ。村民の交流の場をもっと増やしたらいい」互いに接する機会を増やせば信頼関係も強まり、村の活性化にも繋がるということだ。

今一番望んでいることは、Iターンして来た人が居続けるための、受け入れ態勢を今以上にもっと整えてほしいということ。

「成功した参考例がたくさんあるはずだから視察に行ったらどうかな。良い所以外にマイナス面もしっかり見てきてほしい。良い情報を共有しあったら、それを実際に行動に移して、なおかつ受け入れ態勢をしっかりとる。この村のいいところは、本当に何もないところ。この時代だからこそ光る価値がこの村にあるんだ。あとはみんなの知恵で収入源を確保さえできれば、もっと人が集まるんじゃないかな。何れにせよ僕らは何時も村を応援しているんだ」。


相木商会で作る漬物


東京から移住し林業を担う畑中さん

移住者インタビュー 06

新しい林業を・畑中さん

村全体に広がる
自然に触れれば
誰でも優しくなれる

カラマツを伐採中

クルマにいつも積んでいる林業の道具

東京の西荻窪出身の畑中さん。東京環境工科専門学校を卒業後、阿智村で山村留学の指導員をしていた。10年ほど前に北相木村を訪れ、北相木村診療所の先生が作った森林を使った活動に参加したり、地元林業事業体で働いたりしていた。その後、自らNPO法人「村産材を使う会」を立ち上げた。

「今のNPOメンバーは主に、役場の白川さんと坂本さん、大工さんと建具職人と自分の5人。北相木の森づくりや魅力ある林業の形態、モノ作りをしたくてこの会を立ち上げたんだよ。でもNPOの活動はやりやすいかというとそうでもないよ。NPO自体があまり知られていないんじゃないかな。でも林業従事者として北相木の山には愛着があるよ。村の木であるカラマツが多い山なので紅葉樹も多いし、環境を意識した森づくりをしていく場合にはやりやすいと思う。北相木村の誇りである森林を守っていくためには自分たちは必要な存在なんじゃないかな」。

自然の恵を大切に日々生活している北相木村。移住者から見るとどうなのだろう。暮らしてみた感想を聞いた。

「暮らしやすいところだと思うよ。よくしてくれる人も多いし。これから移住してくるにあたっては良いところだと思う。突然今までと違う環境に入った時に、声をかけてくれる人がいないのは不安ばかりだと思うし、よくしてくれる人が少しでもいることは心強いんじゃないかな。都会の生活に疲れたり、田舎の生活に期待を抱いて移住を考えている人も多くいるんじゃないの」と、未来の移住者に畑中さんからのアドバイスだ。

「とにかく一度きてみたらいいんじゃないかな。大勢来て、また大勢が帰って、ある意味の交流というか…。そうすれば移住っていう概念がなくなって気軽に行き来できるようになるんじゃないかな。それから林業を目指して来た人には、10年はやって欲しいと言ってるよ。なるべく自然に近いところで働けば、ちょっとした悩み事とかも減ると思うし」。物事は一朝一夕では片付かないことを最後にしっかりと話してくれた畑中さん。それでも自然に囲まれていれば、抱えている悩み事も減るだろうと気を遣う言葉も忘れない。自然に関わる男の優しさが垣間見えた。


カラマツを製材し村産材の普及を図る

農業 林業 産業



村の特性を活かした産業で、
より豊かな明日を。

《労働・産業関連の補助金》

- ◎村外に通勤する村民に通勤費年額4万円補助
- ◎新規就農支援　月3万円
- ◎農器具倉庫設置　事業費100万円以内で1／3補助
- ◎佐久平駅駐車場無料券
- ◎パイプハウス設置　事業費100万円以内で1／3補助

〈写真〉野菜団地に広がる高原野菜



キク栽培



農産物直売所



林業センター

面積の大部分が森林であり、大きな工場もスーパーマーケットもない北相木村では、就業別人口からみると、村内では第一次産業の農林業に従事する人が割合多くなっています。これは土地柄当然ともいえることでしょう。

今後、この村で暮らす人々を増やしていくためには、産業振興はもっとも重要な課題です。現在、第二次、第三次産業に従事する多くの人たちは、村外の事業所に通勤しています。村では通勤の負担を軽くするため通勤費を補助していますが、より村内での仕事を増やしたいとも考えています。しかしながら、農林業従事者の高齢化が進み、また大きな工場を誘致できる土地がないことが村内の事業を増やせないでいる大きな要因となっています。今後は農産物・林産物を村内で加工し、全国に出荷していけるような特産品の開発が求められています。農産物・林産物の生産・加工・販路開拓などを通じて産業間の連携が生まれると、いわゆる6次産業化の道が見えてきます。経営の多角化が成功すれば、この村の産業の未来が拓けてくるはずです。

農業

村には後継者不足による耕作放棄地がありますが、それは裏を返せば新規就農者を受け入れる土壌があるということでもあり、パイプハウスや農機具倉庫の設置を助成するなどして、積極的に就農支援を行っています。遊休農地は交流型・観光型農業にも活用できるので、体験農業など新しい農業の形を生みだすための大きな資源にもなります。

農業は村の基幹産業ですが、標高が高く気候が冷涼のため、農作物を育てるには厳しい環境でもあります。また、中山間地ですから、広い耕作地はありません。このような条件の中で、白菜、レタスなどの高原野菜をはじめ、菊などの花き栽培を手がけ、さらに高付加価値の農産物として高地では栽培しづらいイチゴやホウレンソウの栽培にチャレンジする農家も出てきました。また、山ブドウを栽培し、オリジナルワインの特産品化にチャレンジしているグループもあります。

林業

森林は、自然景観や多様な動植物の保護、水源かん養林、防災などさまざまな機能を持っていますから、多くの森林を保有する北相木村ではその機能を維持できる林業を育てていく必要があります。そのためにも人工林の多くを占めるカラマツ材の用途開発は必須なのです。村に住む大工や建具職人がカラマツを利用した建具製作を推進してくれています。また、特用林産物としてマツタケをはじめ山菜類も期待されています。マツタケは高付加価値の特産品ですが、現状生産量は不安定であり、生産量を確保するためには栽培のメカニズムを解明する必要があります。

商工業

村内に商店は2店舗ありますが、車の普及など商圏が大きくなったことで村外での購買が増えています。しかし、商店・飲食店などは地域の賑わいや観光との連携には必要不可欠です。村に適した新しい商業のあり方を模索しています。

また、村内の工業の中心は農産物加工と木材の製材です。土地柄大きな工場がたてられないため、規模は大きくありませんが、地元の農林業と連携して北相木村独自の特産品を開発していくための重要な役割を占めています。



農産物直売所に並ぶ新鮮な野菜



亜麻の収穫体験



木工所へ伺うと村産材にこだわる大工さん



未来の林業家を育てる林業インターン

《豊かな北相木村の姿》

観光 遺跡 文化財



〈写真〉首都圏からも観光客が集まる。長者の森フェスティバル。

村の観光資源は、村営のリゾート施設で様々な設備の揃った「長者の森」がメインですが、そのほかにも加和志湖、相木川の渓流釣りや、冬の氷柱で有名な三滝、村のシンボルであり標高2000mを越す御座山、縄文早期の人骨・生活跡が見つかった栃原岩陰遺跡と、その出土品を展示する北相木考古博物館など多岐に渡ります。

このほか全国のカメラマンが集まる無形文化財も多くあります。古くから地域に伝わる祭や民俗行事です。江戸時代から続く栃原獅子舞、子どもたちがワラの「さんだわら」にひな人形を乗せて流す「かなんばれ」、豊作を祝う子どもたちの行事「とうかんや」などは、山間の農村の素朴な文化を伝えるものとして人気があります。

また、北相木村はスポーツ施設も充実しています。グリーンドーム（北相木村民交流スポーツセンター）やサングリーン広場（村民グラウンド）は、長者の森のロッジを宿泊施設として、夏季は都心の学生のスポーツ合宿としても利用されています。

北相木村の魅力を多くの人に感じてほしい、これは村民だれもが思っていることです。観光客が増えれば村は賑わい、村の知名度・好感度があがって、気軽にIターンしてみようかなという人が増える可能性もあるからです。村にとって観光は村の未来を担うものなのです。

長者の森

158haの広大なカラマツ林の中に、ロッジ、コテージ、テニスコート、パターゴルフ場、マレットゴルフ場、屋外ステージ、バーベキュー施設、ローラー滑り台などアクティビティ施設が豊富なリゾート施設です。自然の中で手軽にスポーツや釣りが楽しめます。最近人気のオートキャンプ場も備えました。営業期間はゴールデンウィークから10月末までで、主に関東地方からたくさんの人が訪れます。暑くあわただしい都会の喧騒を逃れて長者の森で過ごす時間は、都会で暮らす人にとって貴重なリフレッシュタイムになっているようです。この魅力をさらに増やし、他の観光資源との連携や、村の特産品をお土産販売としてつなげていければ、より多くの人に愛される施設に成長していく可能性があります。

自然の魅力を求めて

村のシンボル御座山は登山道が2つあり、白岩から入る林道の終点から約3時間のコースと「長者の森」の登山口から約4時間のコースがあります。加和志湖、相木川は渓流釣りのメッカとして知られ、春から秋にかけて多くの釣り人が訪れます。冬になるとコバルトブルーに輝く三滝の大禅滝の30mの氷柱が現れます。山々のカラマツの森は樹氷で白く美しく、雄大な大自然を体験できます。

現在、北相木村らしい自然体験・農業体験などの新しい観光プログラムを開発中です。さまざまなアイデアを持ち寄り、村外の多くの人に北相木村にきてよかったと思っていただける観光産業をつくっていきたいと考えています。



左／三滝の大禅滝の氷柱　右上／かなんばれ　右下／長者の森のコテージを楽しむ皆さん

《長者の森の施設利用料金》

◎6人用コテージ …… 1泊1棟7000～11310円
◎ロッジ …… 1泊2食付き8740円
◎オートキャンプ …… 1区画1日3600円
◎バーベキューハウス …… 1人2時間510円（小学生以上）
◎テニスコート …… 1面1時間510円
◎パターゴルフ …… 1人2ゲーム510円（18ホール）
◎ローラー滑り台 …… 1人1時間100円

《北相木村考古博物館》

◎入館料　一般200円（20名以上の団体の場合は150円）
　　子供100円（20名以上の団体の場合は50円）

縄文文化を体感する 北相木村考古博物館



「この縄文土器の表面の文様は発見例の少ない貴重な資料です」と学芸員の藤森さん

栃原岩陰遺跡の様子と、その出土品などを見学できる村唯一の博物館です。「栃原岩陰遺跡は1965年に発見された、縄文早期、約1万1千から9千年前の遺跡で、10体以上の人骨をはじめ数多くの遺物が出土しました。出土物のいずれもが人類学・考古学の研究の上で大変に貴重なものが多く、後に国の史跡に指定されました。博物館では縄文早期の人のくらしを主なテーマに分かりやすく展示しています。栃原岩陰遺跡のジオラマをはじめに、生活の道具や食料などについて学習できます。もちろん村内の歴史資料も収蔵・展示しています」と学芸員の藤森英二さん。藤森さんは博物館の運営の他、出土品の調査研究、展示、普及活動、”ロックフェスティバル”という考古学のイベントを企画したり、地元新聞社から縄文時代の本を出したりと、多忙な日々を過ごしています。



国史跡・栃原岩陰遺跡



北相木村考古博物館



ジオラマで栃原岩陰遺跡を再現